HTLV-1母子感染を防ぐために

公益社団法人日本産婦人科医会
公益社団法人日本小児科医会

平成28年度版

＜HTLV-1ウイルスについて＞

HTLV-1ウイルスはヒトT細胞白血病ウイルス-1型と呼ばれ、成人T細胞白血病などの原因であることが分かっています。日本は先進国の中でHTLV-1抗体の陽性者が最も多く、100万人を越えています。西日本に多くみられましたが、人口の移動とともに全国に拡散する傾向にあります。

＜HTLV-1ウイルスによっておこる病気＞

成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）

白血球の中のT細胞にHTLV-1ウイルスが感染し、がん化することで発症する血液のがんです。多くは母子感染によりHTLV-1ウイルスに感染し、長い経過の後、60歳代後半を中心に発症します。リンパ節腫脹、皮疹などの症状の他、強い免疫不全となり、ATLを発症すると白血病の中でも予後が不良といわれています。抗体を持つキャリアの生涯発症率は約５％であり、40歳以前の発症はまれです。

HTLV-1関連脊髄症（HAM）

30 ～ 50歳代の発症（平均40歳）が多く、１年間でキャリア約３万人に１人の割合で発症し、キャリアの生涯発症率は0.3％と推定されています。下肢のつっぱり感や歩行時の足のもつれなどが最初の症状で、進行性に両下肢の痙性不全麻痺を起こし、日常生活が著しく制限される難病です。

＜赤ちゃんへの感染経路＞

主な感染経路は母乳による母子感染です。母乳中のHTLV-1ウイルスに感染したリンパ球が体内に入ることにより感染します。母乳栄養の場合の母子感染率は17.7％と報告されています。母乳をやめて人工栄養にすることで母乳を介した母子感染を最も確実に防ぐことができます。ただし、完全に人工栄養にした場合でも約３％の児に感染が起こるため、母乳以外の感染経路（産道感染、経胎盤感染など）も考えられています。

＜出生した赤ちゃんについて＞

HTLV-1に赤ちゃんが感染しても乳幼児期に特別な健康上の問題を生じることはありません。日常生活の中ではHTLV-1の感染予防に特別な配慮は必要ないとされています。

＜母子感染予防＞

現時点では母乳をやめて完全人工栄養にすることが最も信頼できる予防方法とされ、推奨されています。母乳の利点をできるだけ活かす方法として、短期母乳、凍結母乳が考えられていますが、まだ安全性の確立した方法ではありません。

【完全人工乳栄養】

初乳も含め母乳を全くあげないことで赤ちゃんへの感染を予防する方法で、最も信頼できる感染防止法です。母乳をあ

げなくても分娩時などに約３％の頻度で赤ちゃんに感染が起こるとされています。

【短期母乳栄養】

授乳期間を生後90日までに制限する方法です。子宮内でお母さんから赤ちゃんに移行した抗体（免疫力）が存在する短期間（生後90日間）だけ母乳栄養を行い、その後、人工乳にする方法です。ひとたび母乳栄養すると止めにくいことが問題になっています。

【凍結母乳栄養】

搾乳して24時間以上凍結することで、感染リンパ球を破壊してから解凍して授乳する方法です。

＜栄養方法による母子感染率＞

平成21年度厚生労働科学研究では下記の報告がなされています。短期母乳と凍結母乳の安全性についてはデータが少なく、まだ確証は得られていません。

栄養方法	人数	赤ちゃんへの感染率
母乳栄養（90日以上）	525人	17.7％
完全人工栄養	1533人	3.3％
短期母乳（90日未満）	162人	1.9％
凍結母乳	64人	3.1％

（平成21年度厚生労働科学研究より）

＜栄養方法別の長所と短所＞

栄養方法	完全人工栄養	短期母乳栄養	凍結母乳栄養
考え方	母乳中のウイルス感染細胞を子どもに一切与えない	母乳中のウイルス感染細胞を子どもに与える期間を制限する	母乳中のウイルス感染細胞を破壊してから子どもに与える
長所	母乳を介した感染の予防法として最も確実	短期間であるが、母乳栄養の利点を活かすことができる 直接授乳することができる	ある程度母乳栄養の利点を活かすことができる
短所	初乳も含め、母乳を全く飲ませることができない 母乳分泌抑制のための治療が必要になる	赤ちゃんが嫌がったり、周囲の理解が得られないことで短期（90日）で断乳することが困難になることがある（母乳の期間が長くなるほど感染の危険は高くなる） 断乳時に母乳分泌抑制のための治療が必要になることがある まだ安全性の確証がない	搾乳、凍結、解凍などに手間がかかる 24時間以上の凍結が必要なので、出生後24時間は人工栄養か糖水を与える 近年のcell alive system（CAS）の冷凍庫は予防効果が期待できない可能性がある まだ安全性の確証がない

【短期母乳の方法と注意点】

60日まで　：母乳（母乳が十分でないときは人工栄養との混合でもよい）

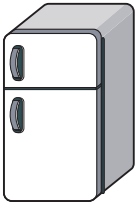
60～90日：搾乳した母乳を哺乳瓶で与える、人工栄養を導入するなど母乳中止への準備

90日以降　：人工栄養

短期母乳の場合には、赤ちゃんが哺乳瓶での授乳を嫌がるなどにより母乳をやめられなくなることがあり、母乳中止に向けて計画的に取り組んでいく必要があります。また周囲の理解と協力も必要です。母乳期間が90日を超えてしまった場合、授乳期間が長くなればなるほど赤ちゃんへの感染の危険性が高くなります。

【凍結母乳の方法と注意点】

- １回の搾乳で1パックの母乳パックをつくります。
- －20℃以下で24時間以上凍結してからお使いください。
- 冷凍庫での母乳の保存期間は３ヵ月です。
- 凍結した母乳の解凍は、室温で放置し自然解凍させるか、流水で解凍してください。　微温湯（30～40℃）での解凍は20分以内で終わるようにします。
- 授乳前に室温（27℃くらい）まで母乳を温めます。一度暖めたら４時間以内に使



い切ってください。また、解凍した母乳は冷蔵庫で保存し24時間以内に使用しましょう。

- セルアライブシステム：cell alive system（CAS）の冷凍庫は鮮度を保って凍結保存するため、細胞が破壊されにくく、感染力が低下しない危険性が考えられます。

＜赤ちゃんの抗体検査＞

確実に母子感染の判定ができるのは３歳以降とされています。抗体検査については、３歳になった頃に医療機関に相談し、説明を聞いて検査を受けるかどうかを決めるのが良いと考えられます。

＜受診スケジュール＞

＊出生までに：栄養方法を確認しておきましょう

＊生後１ヶ月：栄養方法が実施できていることの確認

＊生後２ヶ月：栄養方法が実施できていることの確認
（短期母乳を希望される場合、母乳中断準備の確認・相談）

＊生後３ヶ月：栄養方法が実施できていることの確認
（短期母乳を希望される場合、断乳の確認・相談）

＊生後４ヶ月以降：
通常の健診スケジュールで受診しましょう

＊３歳以降：抗体検査（母子感染の状態を確認する）
抗体検査についての説明を聞いて検査を受けるかどうかを相談しましょう

＜不安や心配なことがあれば受診時に相談しましょう＞

お母さんの受診記録

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

◆スクリーニング検査

年月日	妊娠週数	医療機関

◆確認検査（WB法）

年月日	判定	医療機関
	陽性・判定保留・陰性	

◆PCR検査

年月日	判定	医療機関
	陽性・陰性・未施行	

＜栄養方法の希望＞

人工栄養・短期母乳・凍結母乳・その他（　　）

産後の受診	年月日	母乳の状態	医療機関
1ヶ月後			
2ヶ月後			
3ヶ月後			

赤ちゃんの受診記録

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

	年月日	栄養方法	医療機関
出生時			
生後１ヶ月			
生後２ヶ月			
生後３ヶ月			
生後４ヶ月			
生後６～７ヶ月			
生後９～10ヶ月			
生後１歳			

	年月日	医療機関
１歳６ヶ月		
２歳		

	年月日	抗体検査	医療機関
３歳		済・未	

《HTLV-1に関する相談先》

ご自身の将来のことなどで不安や心配なことがある場合は、かかりつけの産婦人科や地域の保健センター（保健所）、地域の拠点病院の相談窓口などに相談して下さい。保健センターでは専門医療機関を紹介しているところもあります。

HTLV-1キャリアでATLなどの発症を防ぐ有効な方法はまだありませんが、定期的に医師と相談しながら正しい知識を得て、経過を見ていくなどにより不安の解消に役立つとも考えられています。

下記の患者会ではHTLV-1に関する情報提供を行ったり、悩みを相談できる会合なども開催されています。妊婦さんやお母さんの会も活動しています。またHTLV-1に関する情報、母子感染予防に関する情報は下記のホームページで確認することができます。

＜患者会＞

＊NPO法人スマイルリボン（日本からHTLVウイルスをなくす会）

http://smile-ribbon.org/

＊キャリアママの会　カランコエ

http://smile-ribbon.org/?mid=htlvma

＊患者登録サイト

https://htlv1carrier.org/

＜HTLV-1に関する情報＞

＊HTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス-1型）に関する情報　厚生労働省

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou29/

＊HTLV-1感染症　国立感染症研究所

http://www.nih.go.jp/niid/ja/htlv-1-infection.html

＊HTLV-1情報センター

http://www.htlv1joho.org/

＜母子感染予防に関する情報＞

＊ヒトT細胞白血病ウイルス-1型（HTLV-1）の母子感染予防について　厚生労働省

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshi-hoken16/index.html

＊HTLV-1母子感染予防研究班ウェブサイト

http://htlv-1mc.org/

MEMO

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

HTLV-1 母子感染予防に関する研究

「HTLV-1 抗体陽性母体からの出生児のコホート研究」

研究代表者：板橋家頭夫（昭和大学）

研究分担者：加藤稲子（三重大学）
木下勝之（日本産婦人科医会）
関沢明彦（日本産婦人科医会）
時田章史（日本小児科医会）